

第 32 回 発電用設備規格委員会 核融合専門委員会 議事録

1 . 日 時 : 2010 年 11 月 11 日 (木) 13 時 30 分 ~ 18 時 00 分

2 . 場 所 : 日本機械学会 第 2 会議室

3 . 出席者 : (委員 11 名、代理者 4 名、欠席者 1 名)

中曽根委員長 (東理大) 高橋副委員長 (電中研) 佐藤幹事 (原子力機構)
鈴木 (中部電力) 井岡 (東芝) 船越 (日鉄鍛) 宮口 (IHI) 寺本 (筑波大)
野村 (関電) 三浦 (日製鋼) 関谷 (原子力機構)

代理者 : 多田 (法政大 宮代理) 小泉 (東北大 橋爪代理) 大森 (核科研 西村代理)
千田 (KHI 古賀代理)

欠席者 : 渡邊 (神鋼)

事務局 : 釜田

(以上敬称略)

4 . 配布資料

- 資料 32-1 第 32 回核融合専門委員会議事次第 (案)
- 資料 32-2 第 32 回核融合専門委員会配付資料リスト
- 資料 32-3 第 31 回発電用設備規格委員会 核融合専門委員会 議事録 (案)
- 資料 32-4 第 54 回発電用設備規格委員会 議事録 (案)
- 資料 32-5-1 専門委員会委員長の選挙結果について
- 資料 32-5-2 専門委員会委員の選任について
- 資料 32-5-3 分科会委員の選任について
- 資料 32-6-1 発電用核融合超伝導マグネット規格の英訳合本版発行について
- 資料 32-6-2 M&M 報告について
- 資料 32-6-3 ASME PVP2011 について
- 資料 32-6-4 TF コイル構造物の調達状況と規格改訂項目

5 . 議事

(1) 午後 1 時半に開会が宣言された。

(2) 議事次第の承認、資料の確認 (資料 32-1、資料 32-2)

議事次第の説明及び資料の確認が行われ、議事次第が承認された。

(3) 前回議事録案の承認 (資料 32-3)

資料 32-3 に基づき、前回議事録案の紹介が行われ、(4・1) の記述について議論があり、専門委員会委員の承認行為は規格委員会での承認事項となるので、それぞれ「再任を提案することが」及び「新任を提案することが」と修正することとした。

(6・2) のタイトルについて、(提案) の後に「に」を追加する。

(4) 規格委員会議事録(案)の紹介

第54回発電用設備規格委員会 議事録(案)の紹介が行われ、核融合専門委員会に対してなされた指摘事項について議論があった。

- ・欠席の多い委員への対応については、専門委員会にて対処する。次回の規格委員会にて委員長から報告する。
- ・第27回が専門委員会として成立していないのではないか、との指摘については、当方の不手際であり、該当会議については、見学及び意見交換会として議事録の改訂手続きを行う。また、第26回の議事録(案)の承認事項については、今回会議にて実施し、原案通り了承された。

(5) 委員について

(5-1) 委員長の選挙結果(資料32-5-1)

資料32-5-1に基づき、次期核融合専門委員会の委員長に高橋氏が選出されたとの投票結果が報告された。また、次期委員長より、副委員長には西村氏、幹事には小泉氏を指名したいとの意向が示された。

(5-2) 核融合専門委員会(資料32-5-2)

資料32-5-2に基づき、核融合専門委員会の再任及び新任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、宮口委員の再任及び小泉氏の新任を提案することが承認された。また、佐藤委員の退任が報告された。

(5-3) 品質保証・材料分科会(資料32-5-3)

資料32-5-3に基づき、品質保証・材料分科会の新任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、閨谷委員の新任が承認された。

(6) 報告事項

(6-1) 発電用核融合超伝導マグネット規格の英訳合本版発行について(資料32-6-1)

事務局より、英訳合本版の発行の現状について報告があった。問合せは多数あるものの、現状は5部しか販売されておらず、委員の方々には積極的な販売促進をお願いしたい、との要請がなされた。

(6-2) M&M 報告について(資料32-6-2)

資料32-6-2に基づき、2010年10月9日から11日に開催されたM&M2010材料力学カンファレンスの報告がなされた。

出席者は20名、活発な議論がなされたが、もう少し認知度を上げる必要があるのではないか、との意見が出された。

(6-3) ASME PVP2011 について(資料32-6-3)

資料32-6-3に基づき、来年7月に開催予定のASME PVP2011について説明があった。多田氏より、韓国から1件、ITER機構より3件、原子力機構より2件の投稿を予定しているとの報告があった。これに対し、委員長より、専門委員会より少なくとも1件出す必要があるのではないか、との意見が出され、今後調整することとした。

(6-4) 今後の活動方針について (資料 32-6-4)

資料 32-6-4 に基づき、原子力機構中嶋氏より超伝導マグネットの調達の現状及びこれに関連する超伝導マグネット構造規格の改訂項目と分科会での審議スケジュール案について説明があり、以下の議論があった。

- Ni ワイヤの強度について質問があり、フェライトが含まれると靱性に課題が生じるので新規の材料が必要との回答があった。
- 溶接の割れについて質問があり、拘束条件に依存するのではないか、との回答があった。
- 溶接部について、母材強度を下回るのではないかと、との質問があり、これまでの経験から壊れることはない、との回答があった。
- これらの課題も含めて 2012 年の製作に間に合わせたいので、効率的な審議をお願いしたいとの要望がなされた。これに対し、まず、12 月に合同の分科会を開催して、その中で協議を進めてみてはどうか、との意見が出され、合同分科会の開催について日程調整を行うこととなった。

(7) その他

次回開催予定

次回専門委員会は 2 月 18 日(金)に開催する。事務局にて調整し各委員へ連絡する。

以上